

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

世田谷の歴史と文化

世田谷区立郷土資料館 常設展示

平成24年3月

世田谷区立郷土資料館

●世田谷区の遺跡

世田谷区は、都内でも有数の遺跡密集地であり、その分布は、区内のほぼ全域に及んでいます。時代的には約3万年前の石器製作跡から近世の大名陣屋にいたるまで、ほぼ全時代を網羅しています。特に水利に恵まれた多摩川沿いの国分寺崖線上は、居住するのに適していたとみえ、多くの遺跡が確認されています。

世田谷の代表遺跡・遺構としては、廻沢北遺跡・下山遺跡・嘉留多遺跡の石器製作跡（旧石器時代）、稲荷丸北遺跡・瀬田遺跡の貝塚（縄文時代）、堂ヶ谷戸遺跡の環濠集落（弥生時代）、野毛大塚古墳・御岳山古墳・喜多見稲荷塚古墳（古墳時代）、下山遺跡の横穴墓・火葬墓（奈良・平安時代）、世田谷城址、奥沢城址（室町時代）、喜多見氏陣屋跡（江戸時代）などがあげられます。

槍先形尖頭器は、旧石器時代後半期に出現し、以後様々な改良を加えられながら発展する狩猟具です。この2点の槍先形尖頭器は、ともに両面加工品で木葉形を呈している旧石器時代終末期のもので



旧石器時代の石器（槍先形尖頭器 廻沢北遺跡）



（右）縄文時代の土器（縄文中期 諏訪山遺跡）
（左）弥生時代の土器（堂ヶ谷戸遺跡第23次調査区出土）
（下）弥生時代の石器 挟入片刃石斧（下山遺跡）

柄を取り付けるために基部に大きな抉りを作り出した石斧です。刃部は片側が厚手となる片刃で、全体が入念に研磨されています。主に木材の加工に使われました。



古墳時代の短甲 (複製 御岳山古墳)

御岳山古墳は、戦後間もなく主体部のみが発掘調査されています。埋葬施設の粘土槨からは、写真の鉄三角板(さんかくいた)鋌留短甲(びょうどめたんこう)と鉄横矧板(よこはぎいた)鋌留短甲(びょうどめたんこう)のほか直刀片などが出土しました。御岳山古墳は、径 42m ほどの「帆立貝形古墳」ないし「作り出し付円墳」と推定され、等々力溪谷を挟んで東に隣接する野毛大塚古墳に後続する、5 世紀中

頃、地元の住民によって御岳山古墳から掘り出された内行花文鏡です。7つの鈴が付属しているため七鈴鏡と通称します。鈴鏡は、群馬を中心とする北関東に多く分布しています。実物は等々力の致航山満願寺に保管されています。



古墳時代の七鈴鏡 (複製 御岳山古墳)



文字瓦 (武蔵国分寺)

武蔵国多摩郡を表わす「多」や同荏原郡を表わす「荏」が押印された文字瓦です。文字瓦は国府(東京都府中市)や国分寺(同国分寺市)周辺で多数見つかっています。古代の世田谷は多摩郡と荏原郡に属していました。

土師器や須恵器に墨で文字や絵を書いたものを墨書土器といいます。主に官衙やその関連遺跡で出土することが多いのですが、一般の集落からも出土することがあります。世田谷では、「大」や「舎」などの墨書が出土しています。



墨書土器 (堂ヶ谷戸遺跡出土)

●江戸氏と木田見郷

武蔵国木田見郷(現世田谷区喜多見一帯)が鎌倉時代より江戸氏の領地であったことは、「熊谷家文書」などの文献により明らかになっています。「関東一の大福長者」と呼ばれた江戸太郎重長の次男・江戸武重(氏重)は木田見郷をその本拠とし、木田見次郎武重と名乗ったと伝えられています。

有名な熊谷(くまがい)直実(なおざね)の家に代々伝わる「熊谷家文書」には、この木田見武重の子孫たちが木田見郷の領地をめぐる熊谷氏との間に起こした訴訟一件文書が含まれています。その初見は文永11年(1274)のものであり、これが世田谷区域内における土地領有関係を示す最も古い文書となっています。

江戸時代に、2万石の大名にまでなった喜多見氏は、江戸重長の嫡子・忠重から連なる家系で、本来、木田見氏とは別の家でしたが、江戸右京亮(うきょうのすけ)康重(嘉吉の頃の人)の代に至って、木田見の家を継ぎ、江戸庄(現皇居一帯)より喜多見の地へ移住したものと考えられます。



大日一尊種子板碑
(堂ヶ谷戸遺跡出土)

鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに造られた石製の供養塔で、関東では材料の石として、ほとんどが秩父青石と呼ばれる緑泥片岩を用いています。板碑は、死者の菩提を弔う追善供養のため、また、建立者が生前に死後の冥福を祈って法事を営む逆修のために建立したと考えられています。写真の板碑は区内最古で、弘安元年(1278)の銘が入っています。

●世田谷吉良氏

吉良氏は清和源氏・足利氏の支族で、三河国幡豆郡吉良庄より起こりました。世田谷吉良氏はその庶流で、足利義継を祖とし、その子・経氏の時、吉良姓を名乗ったと伝えられます。経氏の孫・貞家は建武政権・室町幕府の要職を歴任した後、奥州探題となって陸奥国に下向し、勢力を拡大しました。しかし、3代将軍・足利義満の治世に至って、奥羽両国が鎌倉府の管轄におかれるなどの事情により、奥州からの撤退を余儀なくされた吉良治家は、足利將軍家の「御一家」として鎌倉公方に仕えることになりました。治家の時代以降、世田谷と蒔田(現横浜市)にその本拠を置いたので蒔田殿(まいたどの)と称せられるようになりました。吉良氏が世田谷城を構築した時期については全く不明ですが、治家の鎌倉鶴岡八幡宮に宛てた寄進状から、永和2年(1376)の段階で、既に吉良氏の領地が世田谷郷内にあったことがわかっています。

●後北条氏と吉良氏

北条早雲が小田原に城を構えて以来、関八州に絶大な勢力を誇っていた後北条氏は、世田谷吉良氏が将軍家足利氏の一族であることを重視し、これを滅ぼすことなく平和的に懐柔しようと考えました。北条家2代当主・氏綱は、その娘を、吉良頼康のもとに嫁がせました。頼康に実子があったことは、『快元(かいげん)僧都記(そうずき)』や「旧泉沢寺蔵阿弥陀仏像札銘」などから明らかですが、成人しなかったためか、その世継ぎには、今川貞基と氏綱の娘・高源院との間にできた氏朝を迎えました。また、氏朝のもとにも、前代に続き、北条家の娘(鶴松院〈かくしょういん〉)が嫁いでいます。



北条幻庵覚書(後半)

北条幻庵覚書(前半)

幻庵は北条早雲の第3子で、幼名を菊寿丸といいます。仏門に入った後、長綱あるいは幻庵宗哲と号しました。本状は、吉良氏朝のもとに嫁す、北条氏康の娘(鶴松院)に、幻庵が奥方としての心得などを書き与えたものです。その内容は姑・夫などへの仕え方から、婚礼の方法、諸人への対応、日常のたしなみなど多岐にわたっています。書体は女性に宛てたものであるため、平易な仮名書き文となっており、一つ書きで二十四カ条に及びます。

●世田谷新宿と楽市(ボロ市)のはじまり

後北条氏は、領土の拡張に伴って、要所々に支城を配置し、その領国体制を固めていきました。そのなかでも、特に重要な拠点であった江戸と小机(現横浜市)を結ぶ位置にある吉良氏の本拠地・世田谷は、後北条氏の注目することとなったのでしょう。後北条氏4代の当主・氏政は天正6年(1578)、世田谷に新たな宿場(世田谷新宿)を設けるとともに、ここに楽市を開き、矢倉沢往還の整備につとめました。その目的は、軍事・政治上に必要な伝馬の確保にあり、そのためには宿場の繁栄が必要不可欠でありました。こうして、世田谷の楽市が開かれたのです。この時、後北条氏によって開かれた楽市は、そのかたちを変えながらも、今もボロ市として存続しています。



北条氏案市提書

● 家康の関東入国

天正 18 年（1590）、豊臣秀吉と敵対していた後北条氏が小田原征伐によって滅ぼされると、後北条氏と強いつながりを持っていた世田谷城主・吉良氏朝は、下総国（しもうさのくに）生実（おゆみ）（現千葉市）に逃れることを余儀なくされました。また、当時、吉良・後北条両家に仕えていた江戸氏の末裔・江戸勝重（後、勝忠）も小田原城に立て籠もり、秀吉の軍勢と戦いましたが、落城の後、先祖伝来の地・喜多見に潜伏することになりました。

一方、後北条氏に代わって関東に入国した徳川家康は、戦役の後、関東各地に潜居していた旧家・名族の者たちを家臣に取り立て、その優遇策を計りました。吉良氏朝の子・頼久は、天正 19 年（1591）、上総国長柄郡寺崎村に 1125 石の領地を与えられ、江戸勝重も、文禄元年（1592）頃に、旧領・喜多見村 500 石を安堵されています。家康の家臣となった頼久は、吉良姓を名乗ることをやめ、蒔田と改姓しましたが、3 代後の義俊に至って、吉良姓に復しました。また、江戸勝重も、家康の新しい居城の地・江戸をその姓とすることを憚って喜多見と改姓しました。その後、喜多見氏は代々江戸幕府の要職につき、ついには 2 万石の大名となりましたが、元禄 2 年（1689）、刃傷事件により御家断絶となっています。

喜多見流茶道を創始した久太夫重勝は、喜多見若狭守勝忠の三男として、慶長 9 年（1604）武蔵国に生まれました。禄高 1500 石を知行し、目付・大坂目代などの要職を歴任しています。妻は堀田加賀守正盛の妹・勝境院であり、そのすぐ上の姉は宗可流茶道の祖・佐久間将監のもとに嫁しています。そうした縁によったものか、久太夫は、始め、佐久間将監に茶湯を学びましたが、後に、父・勝忠と親交の深かった小堀遠州に師事し、皆伝を受けています。こうして宗可流と遠州流の茶道を会得した久太夫は、その茶人としての技量を高く評価されることとなり、茶道の一流派をなすまでに至ったのです。



(右)豊臣秀吉の禁制 天正 18 年 (1590)
(左)喜多見久太夫肖像 延宝 3 年 (1675)
狩野安信筆・賛木庵



発掘中の喜多見氏陣屋跡

●近世の村落支配

家康が関東に入国すると、世田谷のほとんどの村がその直轄領となり、代官・松風助右衛門の支配下に置かれました。私領としては、喜多見氏・藤川氏らの旗本 7 人が、喜多見村・深沢村・経堂在家村など都合 9 ヲ村に給地を与えられたにすぎませんでした。

寛永年間 (1624~1642) に入ると、大幅な領主替えが行われ、天領 15 ヲ村 (後 20 ヲ村) が井伊家の江戸屋敷賄料(まかないりょう)として、彦根藩領に組み込まれたのをはじめ、14 ヲ村が旗本領に、1 ヲ村が増上寺領に替わりました。その間、村々においては新田畑の開発が進み、飛躍的に生産力が増しました。元禄 8 年(1695)には、増大した生産高を把握するために検地が施行され、村高 (公定生産高) が確定しました。元禄期は近世村落の支配体制が完成した時期であり、この時確定した村高は明治維新まで変更されることはありませんでした。



深沢村指出検地目録 天正19年(1591)

家康の関東入国後最初に実施した検地の時のもので、その記載は、田に上・中・下、畑に上・中・下・下々の等級が用いられ、1反300歩制が採られています。これは太閤検地の基準に従っていますが、1反の小割には、なお、大・半・小(200歩・150歩・100歩)という旧制が用いられています。

● 幕末の動乱と世田谷

安政5年(1858)、大老職に就任した井伊(いい)直弼(なおすけ)は日米修好通商条約の調印を断行し、それまで宙に浮いていた将軍継嗣問題に決着をつけました。さらに直弼は、自らの独断専行に猛然と反発する反対派の一掃を謀って「安政の大獄」を強行しましたが、安政7年(1860)3月3日、激高した水戸浪士らが、江戸城桜田門外において直弼を暗殺しました(桜田門外の変)。領主・井伊直弼の暗殺事件は、世田谷領20カ村の人々をも震撼させる一大事件でした。

安政6年(1859)貿易が開始され外国使臣や貿易商が続々来日しますと、攘夷思想を持った武士たちによる外国人殺傷事件が頻発しました。なかでも文久2年(1862)に起きた生麦事件は、大きな波紋を投げかけました。賠償金を要求してイギリス艦隊が横浜港で示威行動を起こすと、たちまち、そのうわさが江戸市中に流れ、動揺した市民は親戚縁者を頼って家財道具の疎開を始めることになりました。

当時江戸郊外の農村地帯であった世田谷は格好の疎開先となったのです。

「大場美佐の日記」 安政七年三月
 三日雪ふり夕方よやみ
 一、御節句例之通り祝ひ候事、九ツ時頃太子堂并次郎
 よ以使御屋敷にて変事出来致候事申越候、夕方野良
 田・下のけ・小山名主三人之者御礼二行、帰り委細御
 様子相わかり夫よ支度被成御上屋敷へ御出府、宗八・
 麻次郎・人足六七人連御出被成候事、夜明ヶ方皆々
 御帰りの事



桜田門外の変

大場美佐は、天保4年(1833)12月18日、中延村(現品川区)に生まれ、安政4年(1857)8月28日、25歳のとき、彦根藩世田谷領の代官で大場家第12代の当主であった大場与一景福に嫁しました。



大場美佐写真
(明治13年、50歳頃の美佐)



大場美佐の日記

日記の内容は代官夫人という立場から、代官の行動・日常の起居を記すほか、親類・知人との交際・往来・贈答など、奥向きにかかわった主婦ならではの記述が見られます。日記が書き始められたのは美佐が入嫁して3年後の安政7年(1860)で、この年桜田門外の変が起きています。また、日記最後の年、明治37年(1904)には日露戦争が勃発しました。



吉田松陰肖像

安政5年(1858)、違勅条約調印問題が政治争点となり、これを契機に行動を激化させた吉田松陰は、老中間部詮勝の襲撃を企て藩政府に囚われの身となりました。翌年七月、幕命により江戸伝馬町の獄に送られ、小塚原で打ち首となります。享年30歳。松陰の亡骸は、同所の回向院に葬られましたが、文久3年(1863)、門弟・高杉晋作らの手によって長州藩の抱屋敷地

内(現・松陰神社)に移葬されました。

元治元年(1864)、幕府は長州征伐を決定し、その江戸屋敷を没収しました。この時、若林村にあった毛利家抱屋敷も取り上げ、旗本・志村氏に引き渡すとともに、その立木を若林村に払い下げました。村ではこれを転売し、村の諸費用に充てました。本状は、立木の処分方を若林村名主政五郎に任す旨を伝えた下知書です。

●明治期における区域の沿革

明治2年の東京府の開設、名主制度の廃止、そして明治4年の廃藩置県断行などの維新改革が行われた明治の初め、世田谷は品川県や彦根県(旧井伊領、後に一時長浜県とも呼ばれる)に分かれ、また東京府や神奈川県に分かれるなど、目まぐるしく所属や区域が変わりました。明治11年には東京府に市街地の15区と周辺の6郡が置かれ、世田谷の中東部は荏原郡に、千歳・砧村は、神奈川県北多摩郡に属しました。さらに、東京市の誕生した明治22年には、町村制の施行により、東京府の4ヵ村(世田谷・駒沢・松沢・玉川)と神奈川県の2ヵ村(千歳・砧)に分けられました。



下知書

明治4年正月20日、斎藤寛斎の発願で、品川県五番組に組合村立の郷学所が開校しました。同年4月3日には、太子堂円泉寺の大山道沿いの持地に校舎が完成し、同23日、太子堂郷学所と改称しました。6月2日には幼童学所と改称し、翌7年正月、第二中学区四番小学荏原小学校と命名され、公立学校として認められました(現若林小学校)。



荏原小学校沿革史

日清戦争後、経済界の活況によって東京の市区改正事業を始めとする土木・建築事業が大いに進捗しました。洋式建築や土木事業の進行は、資材としての砂利の需要を高めました。そして多摩川の砂利の供給のために鉄道の敷設が計画されたのです。こうしたなか、玉川電車(渋谷～玉川)が明治40年に開通しました。



玉電開通 明治40年

●世田谷区誕生

大正から昭和初期には京王線・小田急線・大井町線・井の頭線などが開通しました。大正12年9月、関東大震災が発生すると被害を受けた下町の人々は地価が安く交通の便のよい近郊へ移住し、世田谷も急激に人口が増え、電車の沿線は住宅地に変貌しました。烏山には、この年から昭和4年にかけて都心で被災した寺が22ヶ寺も移転してきて、寺町を形成しています。この頃、玉川村全域で住民の手により大規模な耕地整理（玉川全円耕地整理事業）が行われていますが、住宅化への先取り事業として特記すべきことです。

昭和7年10月1日東京市の区域が拡張され、世田谷も東京市に所属し世田谷町・駒沢町・玉川村・松沢村の2町2村で「世田谷区」が成立誕生しました。さらに、昭和11年10月には北多摩郡であった千歳・砧村の2ヵ村が世田谷区に編入され、世田谷区はこのとき人口21万701人、面積は現在の大きさの58.08km²となりました。

第2次世界大戦の終わり頃の世田谷も、空襲に遭い被害を受けましたが、戦後から昭和40年代には都心からの移住や高度成長期の首都圏への人口集中化などにより、農村地区から一挙に都内有数の住宅地区となりました。

しかし、近郊農村としての世田谷は、戦後の急速な人口増や近代化によって80万区民の住む住宅都市となりましたが、緑や歴史的遺産の消失など新たな都市問題が生じています。



玉川電車案内 昭和2年

玉川線（渋谷～玉川）に加え、大正13年砧線（玉川～砧）、同14年に世田谷線（三軒茶屋～下高井戸）が開通しました。



新町経営地内全図

東京信託株式会社は、駒沢村深沢と玉川村下野毛の飛び地合わせて約23万m²の山林原野を宅地に造成し、大正2年より新町住宅地として分譲を始めました。この住宅地は、玉電停車場（新町停車場）や大

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

山街道に引き込み道路でつながり、分譲地内はすべてレンガ積みの下水が設けられていました。また、東京信託株式会社から融資を受けていた玉川電気鉄道は全戸に電燈電話を供給し、居住者には玉電の特別割引乗車券が販売されました。この新町住宅地は、世田谷にとって、最初の企業による大規模な宅地開発です。

大東京都市拡張計画内であった砧・千歳の両村でしたが、北多摩郡の郡域に属していたため市域編入が遅れていました。



砧・千歳村東京市編入



昭和初期の瀬田付近

昭和14(1939)年3月28日、国民精神総動員委員会が管制公布、翌年、国民生活新体制要綱が発表され、「ぜいたく全廃」運動が開始されました。そしてこの運動のために組織されたのが「隣組」で、これは、「向こう三軒両隣」の6軒を一単位として組織され、戦争遂行のための国民総動員の末端組織になりました。そして、政府の方針伝達・日常生活物資の配給・公債消化・貯蓄奨励・防空防火・防諜などの任務がすべて隣組の連帯責任で行われるようになりました。この茶碗は、こうした隣組結束の意識高揚のために作られたのでしょうか。



隣組湯のみ茶碗

空襲に備えて、光が外に漏れることを防ぐために考案されました。

【H23.2.23】

【H24.3.31】



灯火管制用遮光具と電球

常設展示の概要

平成24年3月31日現在です。

展示品は、展示入替え・貸出等により予告なく変更することがあります。

また、特別展開催期間中(およびその前後数日)、常設展示を縮小する場合があります。

1階

仙川の地層と海棲動物(標本)	採集地 砧8丁目33番地付近	1点
世田谷の史跡 縮尺1:6500		1点
写真 豪徳寺駅前	昭和二十五年(1950年)	
玉川上水木樋	新宿区 四谷 江戸時代	1点
松原羽根木通遺跡出土の炉体土器(住居の炉に使用した土器)	松原羽根木通遺跡 松原1丁目 縄文時代中期 加曾利E式	1点
堂ヶ谷戸遺跡出土の炉体土器(住居の炉に使用した土器)	堂ヶ谷戸遺跡 岡本3丁目 縄文時代中期 加曾利E式	1点

2階

I. 原始・古代「世田谷のあけぼの」

喜多見中通遺跡出土の轡	喜多見中通遺跡	1点
石製模造品 刀子	八幡塚古墳(尾山台2丁目)	5点
旧石器時代 X層の石器 接合資料	瀬田遺跡(瀬田1丁目)	2点
旧石器時代 X層の石器 局部磨製石斧	瀬田遺跡(瀬田1丁目)	1点
旧石器時代 X層の石器 打製石斧	瀬田遺跡(瀬田1丁目)	1点
旧石器時代 IX～VII層の石器 石斧未成品	鎌ヶ谷遺跡(瀬田1丁目)	1点
旧石器時代 IX～VII層の石器 接合資料(VII層)	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	2点
旧石器時代 IX～VII層の石器 ナイフ形石器(VII層)	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	5点
旧石器時代 IX～VII層の石器 搔器(VII層)	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	2点
旧石器時代 IX～VII層の石器 ピエスエスキエ	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	1点
旧石器時代 IX～VII層の石器 彫器(VII層)	下山遺跡(瀬田4丁目)	1点
旧石器時代 IX～VII層の石器 ナイフ形石器(VII層)	中神明遺跡(成城3丁目)	2点
旧石器時代 VI層の石器 接合資料	瀬田遺跡(瀬田1丁目)	1点
旧石器時代 VI層の石器 ナイフ形石器	瀬田遺跡(瀬田1丁目)	10点
旧石器時代 V～IVb層の石器 ナイフ形石器(V層)	嘉留多遺跡(成城1丁目)	1点

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

旧石器時代 V～IVb層の石器 搔器(V層)	嘉留多遺跡(成城1丁目)	2点
旧石器時代 V～IVb層の石器 削器(V層)	嘉留多遺跡(成城1丁目)	1点
旧石器時代 V～IVb層の石器 角錐状石器(IVb層)	滝ヶ谷遺跡	1点
旧石器時代 V～IVb層の石器 ナイフ形石器(V～IVb層)	下山遺跡(瀬田4丁目)	4点
旧石器時代 V～IVb層の石器 角錐状石器(IVb層)	堂ヶ谷戸遺跡	1点
旧石器時代 V～IVb層の石器 ナイフ形石器(IVb層)	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	6点
旧石器時代 IVa層の石器 ナイフ形石器	廻沢北遺跡(千歳台4・船橋7丁目)	10点
旧石器時代 IVa層の石器 ナイフ形石器	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	10点
旧石器時代 IVa層の石器 石核	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	2点
旧石器時代 IVa層の石器 磨石	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	1点
旧石器 III層の石器 槍先形尖頭器	廻沢北遺跡(千歳台4・船橋7丁目)	3点
旧石器 III層の石器 細石刃核	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	1点
旧石器 III層の石器 細石刃	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	3点
旧石器 III層の石器 片刃礫器(チョツパー)	嘉留多遺跡(成城1丁目)	1点
旧石器 III層の石器 細石刃核	下山遺跡(瀬田4丁目)	2点
旧石器 III層の石器 細石刃	下山遺跡(瀬田4丁目)	3点
旧石器 III層の石器 有茎尖頭器	下山遺跡(瀬田4丁目)	1点
深鉢 縄文前期 諸磯式	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目)	1点
鉢 縄文前期 諸磯式	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目)	1点
鉢 縄文前期 諸磯式	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目)	1点
隆線文系土器(区内最古) 有茎尖頭器	根津山遺跡(代田4丁目)	3点
深鉢 縄文早期 条痕文土器	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目)	1点
深鉢 縄文前期 諸磯式	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目)	1点
深鉢 縄文中期 勝坂式	蛇崩遺跡(下馬1丁目)	1点
深鉢 縄文中期 勝坂式	蛇崩遺跡(下馬1丁目)	1点
有孔罎付土器 縄文中期	蛇崩遺跡(下馬1丁目)	1点
浅鉢 縄文中期 勝坂式	蛇崩遺跡(下馬1丁目)	1点
深鉢 縄文中期 加曾利E式	釣鐘池北遺跡(祖師谷6丁目)	1点
浅鉢 縄文中期 加曾利E I 式	松原羽根木通遺跡	1点
深鉢 縄文中期 加曾利E式	蛇崩遺跡(下馬1丁目)	1点
注口土器 縄文後期 加曾利B式	諏訪山遺跡(奥沢3丁目)	1点

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

深鉢 縄文後期 加曾利B式	和田コレクション	1点
深鉢 縄文後期 称名寺式	大蔵遺跡(大蔵3丁目)	1点
石皿と磨石(植物・木の実などをするつぶす)	大蔵遺跡(大蔵3丁目) 縄文時代中期	1点
打製石斧の着装(例)		2点
磨製石斧の着装(例)		1点
弓矢(模型)		1点
石棒	大蔵遺跡(大蔵3丁目) 縄文時代	1点
打製石斧(土を掘る・ならす)	大蔵・八幡山(八幡山1丁目)・堂ヶ谷戸遺跡 縄文時代	4点
磨製石斧 伐採・木材加工	釣鐘池遺跡(祖師谷6丁目)、松原羽根木通遺跡(松原1, 2丁目) 縄文時代中期	2点
石錘(石のおもり・漁労用)	総合運動場遺跡(大蔵4丁目) 縄文時代中期	1点
土錘(土器片を利用したおもり)	総合運動場遺跡(大蔵4丁目) 縄文時代中期	2点
スクレイパー(石匙) (切る・削る)	下野毛遺跡(下野毛1, 2丁目)松原羽根木通遺跡(松原1, 2丁目) 縄文時代中期	2点
石鏃	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目)、廻沢北遺跡(船橋7丁目) 縄文時代	10点
スタンプ形石器	総合運動場遺跡(大蔵4丁目) 縄文時代早期	1点
石錐	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目) 縄文時代前期	1点
土偶 阿玉台式	総合運動場遺跡(大蔵4丁目) 縄文時代中期	1点
球状耳飾	稲荷丸北遺跡(上野毛3丁目) 縄文時代前期	1点
大珠 翡翠製 装身具	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 縄文時代	1点
垂飾 翡翠製 装身具	松原羽根木通遺跡 (松原1、2丁目) 弥生時代	1点
珠	船橋本村北遺跡(船橋4丁目) 弥生時代	1点
壺 弥生町式	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 弥生時代後期	1点
無頸壺 弥生町式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生時代後期	1点
広口壺	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生後期	1点

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

高坏 弥生町式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生時代後期	1点
台付甕 弥生町式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生後期	1点
平底甕 朝光寺原式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生時代後期	1点
S字状口縁台付甕 東海系	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 弥生時代後期	1点
甕棺 甕:朝光寺原式 蓋:弥生町式	下山遺跡(瀬田4丁目) 弥生時代後期	1点
石皿	下山遺跡(瀬田4丁目) 弥生時代後期	1点
石包丁(打製)	下山遺跡(瀬田4丁目) 弥生時代後期	1点
磨製石斧	下山遺跡(瀬田4丁目) 弥生時代後期	1点
台付甕 五領式	上神明遺跡(成城4丁目) 古墳時代前期	1点
甌 五領式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 古墳時代前期	1点
平底甕 和泉式	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 古墳時代中期	1点
器台 五領式	下山遺跡(瀬田4丁目) 古墳時代前期	1点
長甕 鬼高式	上神明遺跡(成城4丁目) 古墳時代後期	1点
壺 五領式	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 古墳時代前期	1点
鉄鎌	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 古墳時代前期	1点
銅釧	総合運動場遺跡(大蔵4丁目) 古墳時代前期	1点
銅鏃	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 古墳時代前期	1点
カマドの構造(模型)		1点
甌 鬼高式	上神明遺跡(成城4丁目) 古墳時代後期	1点
世田谷の地形と主要遺跡(模型)		1点
普通円筒埴輪	野毛大塚古墳	1点
特殊(鱗付)円筒埴輪	野毛大塚古墳	1点
柵形埴輪	野毛大塚古墳	1点
家形埴輪	野毛大塚古墳	1点
水鳥・鳥形埴輪	野毛大塚古墳	3点
初期須恵器 甕・高坏形器台	野毛大塚古墳	3点
土師器・高坏	野毛大塚古墳	3点
野毛大塚古墳第2主体部石棺 レプリカ		1点
都指定遺跡 野毛大塚古墳 模型 野毛1丁目玉川野毛町公園内		1点
区指定遺跡 稲荷塚古墳 喜多見4丁目		1点
横穴墓に描かれた線刻画(不動橋横穴群11号墓)		1点
古墳時代・圭頭の太刀	稲荷塚古墳(喜多見4丁目) 古墳時代	1点

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

耳環(金箔を貼った銅環)	稲荷塚古墳(喜多見4丁目)	2点
鉄鏃	稲荷塚古墳(喜多見4丁目)	4点
刀子	稲荷塚古墳(喜多見4丁目)	1点
土師器杯	稲荷塚古墳(喜多見4丁目)	1点
耳環	等々力溪谷横穴墓群	2点
須恵器平瓶	等々力溪谷横穴墓群	2点
須恵器横瓶	等々力溪谷横穴墓群	1点
須恵器鉢	等々力溪谷横穴墓群	1点
須恵器蓋付高台壺	等々力溪谷横穴墓群	1点
須恵器長頸瓶	等々力溪谷横穴墓群	1点
鉄製小刀	等々力溪谷横穴墓群	1点
須恵器坏蓋	等々力溪谷横穴墓群	1点
土師器坏(内面に螺旋・平行・斜めの暗文を施す)	等々力溪谷横穴墓群	1点
等々力溪谷周辺の地形(模型)		1点
土師器 坏	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 8世紀	2点
台付甕	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 9世紀	1点
須恵器 坏	下山遺跡(瀬田4丁目) 9世紀	1点
緑釉陶器 銅緑釉施釉陶	喜多見陣屋遺跡(喜多見1丁目) 平安時代	2点
陰刻花文 緑釉陶器	喜多見陣屋遺跡(喜多見1丁目) 平安時代	2点
碗(灰釉陶器) 施釉陶	下山遺跡 10世紀	1点
墨書土器(土師器坏)	堂ヶ谷戸遺跡(岡本3丁目) 平安時代	4点
文字瓦「荏」(荏原郡)	武蔵国分寺跡(国分寺市) 奈良時代	2点
文字瓦「多」(多摩郡)	武蔵国分寺跡(国分寺市) 奈良時代	1点

Ⅱ. 中世「武士の登場」

区指定有形文化財 阿弥陀三尊種子板碑	烏山神社南(南烏山2丁目)出土 永徳元年(1381年)	1点
阿弥陀三尊種子板碑	堂ヶ谷戸(岡本2, 3丁目)出土 暦応三年(1340年)	1点
大日一尊種子板碑	堂ヶ谷戸(岡本2, 3丁目)出土 弘安元年(1278年)	1点
焙烙	下山遺跡(瀬田4丁目)出土	1点
骨蔵器(常滑壺)	堂ヶ谷戸(岡本2, 3丁目)出土 鎌倉時代	1点
骨蔵器伴出古銭 宣和通宝	中国・宋時代	2点
吉良頼康判物(複製)	弘治二年(1556年)	1点
吉良頼康朱印状(複製)	弘治二年(1556年)	1点
幻庵覚書(複製)	永禄年間(16世紀中葉)	1点
勝國寺薬師如来像胎内納入文書(複製)	天正20年(1592年)	1点
吉良治家寄進状(写真)	鶴岡八幡宮所蔵 永和二年(1376年)	1点
銭貨	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目)	9点
火挟	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目)	1点
煙管	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目)	1点
硯	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目)	1点
信楽茶壺(腰白茶壺)	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 17世紀	1点
鉄釉水注(瀬戸・美濃系)	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 17世紀	1点
黄瀬戸香炉(瀬戸・美濃系)	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 17世紀	1点
織部香炉(瀬戸・美濃系)	喜多見陣屋遺跡(喜多見1~4丁目) 17世紀	1点
喜多見久大夫重勝肖像(複製)	延宝3年(1675年)	1点
喜多見氏系図 石井至毅書写	天保11年(1840年)	1点

Ⅲ. 近世「幕藩体制下の世田谷」

測量用具	文化四年(1807年)	6点
深沢村検地目録	天正十九年(1591年)	1点
六郷川絵図(複製)		1点
玉川通五ヶ村村絵図(複製)		1点
品川用水堀敷起請文前書	元禄二年(1689年)	1点
世田谷領用水絵図(複製)		2点
青山梅窓院地内前栽培立売一件議定証文	明治4年(1871年)	1点
村方明細書上帳	天保十四年(1843年)	1点
下掃除場所取調書上帳	慶応三年(1867年)	1点
二子の渡し(模型)		1点
武陽玉川八景之図(複製)		1点
武州玉川向ヶ丘枡形山見渡三十三景図(複製)		1点
農耕百首	江戸後期	1点
喜多見旧時考・大蔵村旧時考	江戸後期	1点
江西三十八景詩歌	嘉永五年(1852年)	1点
東野翁詩集	江戸後期	1点
菌譜	嘉永二年(1849年)	1点
近代の大蔵村		1点
大蔵氷川神社奉納絵図(複製)	明治七年(1874年)	1点
富士山諸人参詣之図(複製)	慶応元年(1865年)	1点
年中行事帳	天保十三年(1842年)	1点
庚申掛図(複製)		1点
伊勢参宮名所図会	寛政九年(1797年)	1点
伊勢御札		3点
御嶽神社御札		1点
榛名神社御札		2点
大山阿夫利神社御札		1点
大山阿夫利神社筒粥表		1点
大山寺御札		1点
大山講行衣		1点
大日本道中行程細見記	明和七年(1770年)	1点
太々講執行中料理献立扣牒	文化四年(1807年)	1点
大山奉納木太刀		1点

世田谷の歴史と文化(世田谷区立郷土資料館 常設展示) 平成24年3月

名所古跡参詣覚帳	文化四年(1807年)	1点
大麻・暦配布控帳	明治二十三年(1890年)	1点
念仏講数珠		1点
念仏講取立帳	明治二年(1869年)	1点
奥沢神社大蛇お練り 模型		1点
大蛇 模型		1点
浄真寺(お面かぶり) 模型		1点
道中日記にみる伊勢参宮ルート 模型		1点
伊勢御神楽 模型		1点

次ページに続く

Ⅳ. 近代「幕末の動乱と明治維新」

井伊直弼肖像(複製)		1点
太子堂吉右衛門急報飛脚状	安政七年(1860年)	1点
桜田門外の変死傷者書上	安政七年(1860年)	1点
大場美佐の日記	安政七年~明治三十七年(1860年~1904年)	1点
江水散花雪(複製)	江戸後期	1点
岡本黄石略伝	明治二十三年(1890年)	1点
毛利家抱地立木下付願	元治元年(1864年)	1点
ゲーベル銃		1点
炮術稽古手替仕事巡番帳	慶応二年(1866年)	1点
鉄砲隊配列・出席者名前書上	元治元年(1864年)	1点
胴乱		2点
葦山笠		1点
寺子屋机		1点
庭訓往来		1点
開塾届	明治五年(1872年)	1点
幼学舎規則	明治三年(1870年)	1点
筆算教授次第卷三	明治九年(1876年)	1点
郷学規則	明治四年(1871年)	1点
小学高等読本	明治二十年(1887年)	1点
尋常小学修身書卷五	大正二年(1913年)	1点
相楽霊神		1点
尋常小学図画	昭和十一年(1936年)	1点
石盤・石筆		1点
佐野豊行書簡	明治十三年(1880年)	1点
当選祝の葉書(小泉健次郎宛)	明治二十四年(1891年)	2点
小泉健次郎書簡	明治初期	1点
空拳探訪宇奈根漫録(複製)	大正六年(1917年)	1点
武州荏原郡上北沢村検地帳	元禄十四年(1701年)	1点
区内反別地価取調帳	明治七年(1874年)	1点
地租改正二付人民心得書	明治八年(1875年)	1点
畝杭	明治九年(1876年)	3点

V. 現代「近郊農村から郊外へ」

田舟		1点
近代の三軒茶屋 模型		1点
蘆花肖像絵はがき(複製)		1点
蘆花恒春園絵はがき(複製)		4点
自然と人生	明治三十三年(1900年)	1点
皇都勝景	昭和十七年(1942年)	1点
玉電車輛模型 木造単車3号(明治四十年製)		1点
新玉川線開通絵はがき	昭和五十二年(1977年)	8点
行善寺ヨリ玉川ヲ望ム玉川勝地絵葉書(複製)		1点
東横・目蒲電車沿線整理地鳥瞰図	昭和十三年(1938年)	1点
京王電鉄沿線名所図絵	昭和十三年(1938年)	1点
小田原急行鉄道沿線名所案内	昭和二年(1927年)	1点
深沢地形図	昭和二十二年(1947年)	1点
区画整理事業写真帖	昭和十七年(1942年)	1点
阿部喜之丞が区画整理事業に使用したトランシット (測量機器)		1点
隣組湯飲み茶碗		3点
世田谷愛国婦人会活動風景写真(複製)		1点
鉄かぶと		1点
灯火管制用電球		1点
灯火管制屋内電灯遮光具		1点
東京市隣組回報	昭和十七年(1942年)	1点
大日本国防婦人会の櫛		1点
ラジオ		1点
暮らしの手帳一特集・戦争中の暮らしの記録一	昭和四十三年(1968年)	1点
たばこ手巻器・巻紙		1点
PHILIPS社製 テレビ受像機	昭和二十八年(1953年)	1点
東京都住宅年報	昭和二十九年(1954年)	1点
東京都住宅年報	昭和三十一年(1956年)	1点